

八月二日 刊夕

常磐每日新聞

定価 一月五元 三月十三元 半年二十五元 一年五十元
 発行所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日印刷株式会社



作創 かんざし 木津茂太郎

(3)

彼とつたゑはそれから此の山で會つた。つたゑの親達は時々彼が遊びに行くので彼にすつかり心安くしてゐた、つたゑに言葉も掛けるのを喜んでゐる位であつた。

或る日、その日は丁度此の村の氏神祭だったので、彼の宿へ時とつたゑが遊びに来た、つたゑはもう完全に常體に復してゐたから、とても元氣がよかつた。時とつたゑを言つて笑つたりしたると時が思ひ出したやうに云つた。

「瀬山さん、俺あ津川さんをお呼んで来ようか」
 「喜太郎君か、先生はまた山へ鳥打ちに行つてゐるかも知れないよ」
 「それでも念のため部屋へ行つて来るから」
 時は出て行つたが、暫らくしてどうしたものか戻つて来なかつた。

「つたちゃん……」
 と彼は云つた。
 「今日はいやに綺麗にしてるね」
 「そんなことないわ。でも、お祭だものね」

「あ、」
 彼はさつとつた。
 「東京へ歸るの、伯父さんの家へ歸るの、つたちゃん……」
 「世の中つて寂しいものなのね」
 沈黙が部屋に漲つた。

「あ、」
 彼はさつとつた。
 「東京へ歸るの、伯父さんの家へ歸るの、つたちゃん……」
 「世の中つて寂しいものなのね」
 沈黙が部屋に漲つた。

二人は沈黙してしまつたつたゑはじつと黙つてゐたが、言はうかとも思つた。昨日の朝母に云はれたことを、母はもう東京へ歸つたらよからうと云つた。十三の時養女に貰はれて行つた東京の家から、身體の保養に來てゐるつたゑは、いつかは歸らねばならなかつたのだ。

「あの……」
 と云つて、何んと云つてよいのか分らなくなつた、
 「なに？」
 「瀧の道でが最初だつたのね」

水引の結び方は婚禮凶事の場合には結びきりその他の場合は普通返し結びとする。

ノート

「え？」
 「なんだか世の中がつまらないわ、あたし……」
 「なんだい、急に……、僕には分らない」
 「あなたとお別れなの。二三日したら」
 と云つてつたゑは涙ぐんだ。

「あ、」
 彼はさつとつた。
 「東京へ歸るの、伯父さんの家へ歸るの、つたちゃん……」
 「世の中つて寂しいものなのね」
 沈黙が部屋に漲つた。

「あ、」
 彼はさつとつた。
 「東京へ歸るの、伯父さんの家へ歸るの、つたちゃん……」
 「世の中つて寂しいものなのね」
 沈黙が部屋に漲つた。

二人は沈黙してしまつたつたゑはじつと黙つてゐたが、言はうかとも思つた。昨日の朝母に云はれたことを、母はもう東京へ歸つたらよからうと云つた。十三の時養女に貰はれて行つた東京の家から、身體の保養に來てゐるつたゑは、いつかは歸らねばならなかつたのだ。

「あの……」
 と云つて、何んと云つてよいのか分らなくなつた、
 「なに？」
 「瀧の道でが最初だつたのね」

水引の結び方は婚禮凶事の場合には結びきりその他の場合は普通返し結びとする。

ノート

「え？」
 「なんだか世の中がつまらないわ、あたし……」
 「なんだい、急に……、僕には分らない」
 「あなたとお別れなの。二三日したら」
 と云つてつたゑは涙ぐんだ。

「あ、」
 彼はさつとつた。
 「東京へ歸るの、伯父さんの家へ歸るの、つたちゃん……」
 「世の中つて寂しいものなのね」
 沈黙が部屋に漲つた。

「つたちゃん見て御覽、向ふの道を時さんと津川君が来るよ」
 「さう」
 つたゑは袂から何か出してじつと見つめた。

八月三日辛丑八白大安破
 【一白】我が望事の達するの吉兆を得る吉日なれど猛進すると吉が凶となる
 【二黒】病氣怪俄に注意して現狀維持を守るか吉【三碧】火難水難に注意して物事に忍耐する時は後日吉となる
 【四綠】營業繁昌の吉なるも火災水難印形眼病に注意
 【五黃】古き捨て新企の念あるも家内一致を欠き延々す
 【六白】金談縁談普請の設計等皆吉唯だ長男長女の怪俄注意【七赤】金談の爲め目上と意見衝突を起す事あれば不平不満を起す勿れ【八白】新古の件で困難するか或は家内か親戚に病難纏れ混雜の心配あり【九紫】金談縁談商法取引の奔走は皆吉唯だ目上と口論を起さぬよう

平高野 町島澤 前易定 所象

「僕だつて！つたちゃん、一生あなたを忘れまいと思つてゐるんだ！」
 祭の笛の音が、風の加減で聞えて來た。
 二人はもうしやべらなかつた。じつと向合つて坐つたまゝ、顔を見合つて泣いた。……
 しばらくして、彼は立つて窓際へ行つて外にひろがつてゐる山の森を見つめた見つめてゐる中に知らず、涙がこみ上げて來た。

の物刷印
 て總は命用御
 會社 株式 刷印日每警常
 番〇三六話電

院醫科齒村中
 七町冶鍛町平

應需院入
 院醫沼藤
 町屋紺町平 番七〇五話電
 科科兒小
 科科病柳花
 御愛乗下さい シボレーに！
 そは先驅者なり

燈 提
 瓜形 經四、六同 同 三圓五十錢ヨリ
 四、二同 同 二圓五十錢ヨリ
 三、六同 同 二圓ヨリ
 角形 經六、〇デシメートル 一對房付十五圓ヨリ
 五、三同 同 九圓八十錢ヨリ
 四、五同 同 六圓八十錢ヨリ
 四、二同 同 五圓五十錢ヨリ
 三、七同 同 四圓八十錢ヨリ
 三、四同 同 三圓二十錢ヨリ
 尚御好みにより値も品も色々に調製致します。
 御話下されば早速見本持參御致します。
 平町四丁目
 スガノヤ提灯店
 電話九五番

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番

夏期中自動料金値下
 夏期中沼ノ内、薄磯、豐間、江名方面
 行乗客の御便宜を計り左の通り料金値
 下げ致します。
 片濱料金
 沼ノ内 二十五錢
 薄磯 二十五錢
 豐間 三十錢
 江名 四十錢
 期間七月二十五日より八月三十一日迄
 片濱乗合營業者

神宮競泳に出場の

見事な成績を獲得

磐中の水泳選手

既報磐中水泳部選手志賀貞介、澁谷春雄の両君及び磐城俱樂部の佐藤利治、菅野正夫の両君は去る三十日仙臺市に於て開催されたオールジャパン競泳大会に出場したがコンディション頗る良く左の成績に依り新記録を出し優勝。志賀君は百米二百米、平泳、澁谷春雄君は四百米、千五百米自由型に各々今秋明治神宮のオールジャパン競泳大会に出場する権利を獲得した、因に三百米メドレリレーには四

にて破つた磐中チームは本日午前九時半より盛岡中と對戦奮闘したが遂に球運拙なく七A對四のスコアにて惜敗した因に戦績は左の如くである

平倉庫の販米 本農業倉庫の共同販米は昨日執行、出品数は甲七十俵、乙六十俵合計百三十俵を札せる結果甲は建値七圓九十九錢、乙は七圓九十一錢を以つて入山炭礦に落札したが前回より二十七錢の安値を見た

平局電話増線

近く工事着手

平郵便局では平綴間、平小名濱間、平江名間の各市外通話の一回線増設が此程仙臺通信局より許可されたので近く工事に着手すると

縣道改修工事に

突然の中止命令

勿來や田人が驚いて出縣

石城郡勿來町より東白川に通ずる田人村宇南大平地内縣道の改修工事は工費四千圓を以つて着工の豫定の處

自轉車隊を組織

郡下農漁村巡回

富岡農事實行組合聯合會では来る四日より二泊三日間の豫定で自轉車隊を組織して一路疾走來郡し第一日は平町附近、第二日は城南地方、第三日は小名濱江名方面の代表的農業經營並に諸施設を視察すると

球運に

恵まれず

磐中惜敗

昨日の東北大会に於て強豪野中を四A對一のスコア

第二回の

ケーソン沈下

既報小名濱商港の第二回ケーソン千二百噸の進水式は今日午後一時より行はれた

豫想外の

不成績を見る

陸上競技の劣勢

昨日午前八時より相馬中村町長友馬陵トラックに於て開催された縣下中等學校陸上競技大会に出場した磐中平商兩競技部共に振はず平商の得点九にて第九位、磐中は六にて第十一位で昨年の大会に第二位を占めた磐中が處女出場の平商に劣る等全く豫想外の結果を見た

柔剣道も不振

安達中學校に於て開催された縣下中等學校の柔剣道大会には柔道に磐中の阿部文平、白井晃の両君が個人優勝したのみで他は振はず柔道が

磐中得点二十にて第四位、平商八にて第十四位、剣道が磐中十五にて第十五位、平商十六にて第十七位であつた

平町人事

回出生

△一丁目五十 谷口安治氏
長女妙子
△舊城跡四 山崎富次郎氏
二男一男
△結婚 姻

木村外科醫院

平町五丁目橋際
電話九〇三番

新流行型

海水用品陳列

・ビーチパラソルとコート 各種・

ツルヤ 電一四〇

もむ讀を字文 流風たま

貴下の御名刺と御書狀に御使用願ひ上げます。

(本見)

木下藤吉郎

尾張國愛知郡中村 電話鮮魚無線電番

平町に初めての 采朝活字...到着

此の活字のうまみは、典雅にして高尚！優佳にして自由！實に裕かた字相であります。

暑中御見舞申上候

常磐毎日印刷株式會社

平町長橋町 電話六三〇番

相變らず御願致します

明日は土用の丑の日

牛肉大賣出し

値段は(ヒレ)六十錢 (ロース)五十錢 (上肉)三十錢 並肉二十錢

田町 三二二三屋

電話三二三話

暑中御伺

貴族院 議員 金成通

象議院 議員 鈴木辰三郎

釜屋商店

電話九番 九九番

少年雇人虐待の折監穀屋が罰金の処分を受く

既報石城郡内郷村大字小島字新町三十二番地米穀商遠藤末藤(三)が雇人である山形縣東置賜郡金井村生れ五十嵐博幸(三)を自宅土蔵に監禁散々責め折檻した事件は其後平検事局に於て小林検事係りの下に取調べ中であつたが此の程平區裁判所に於て傷害罪により罰金五十圓の略式命令に處された

罰金五千圓

一月から七月迄

略式命令の處分件數

平區裁判所に於ける去る一月以降七月迄の略式命令處分件數は百五件にて罰金額は最低三圓より最高百五十圓迄の合計四千九百八十五圓に達したが犯罪別は相變らず窃盜、傷害、賭博等が最も多いと

又の値上に

氷業者が脅威

可成り反對の聲が高い

既報平町の氷相場は酷暑と品不足に依つて實當り昨年より二錢高の十六錢となり尙品不足を告げて居る一方昨年小名濱漁業組合と實當り三錢と云ふ安相場で契約してある爲め現在では同組合の需要に追はれて間に合

林間學校 昨日開始

迄開催される縣主催の平町小學校虛弱兒童六十名の林間學校は昨日から開始され白砂清松の間で愉快な一日を遊んだが引卒者は第一横田、吉成、第二津田、金澤先崎、小松、第三天川の諸先生であつた

危く溺死

通行人救助

石城郡四倉町本町海岸で去る卅一日午後五時頃溺死せんとした湯本町々會議員渡邊長作氏夫人(三)さん(三)さんを通行中の同町須藤喜一君

財布を抱き

百姓態の男が益首

何處の者が判らない

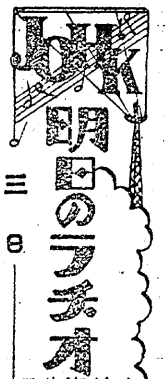
石城郡平窪村大字上平窪字富岡地内山林で昨一日午後三時頃三十才前後の百姓態の男が益死して居るのを通行人が發見平署に届出たので署員が檢死すると死後十

子供の命取り

不良清涼水を

二八九本押収

平署では夏期の傳染病豫防として兒童を顧客とする清涼飲料水販賣店のラムネ、ミカン水等の不良品を去る卅一日に一齊取締した所市



明日のラジオ
天候豫報
の風曇一時晴驟雨
氣味

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
齊唱 J.O.A.K 唱歌隊
ピアノ伴奏國生健夫 指揮
後六、二五 講演
後七、三〇 講演「加藤清正と土木事業」角田政治

明日の部

後八、〇〇 義太夫掛合
「新版歌祭文野崎村の段」
竹本勇藏 竹本吉花外
後八、三〇 哥澤
後八、四五 連續ラヂオ
「人形の家」二 友田
恭助田村秋子外大勢
後九、四〇 時報 ニュー
ス 氣象通報 番組豫告

前六、三〇 歴史講座「日本婦人概論」第五講 二
高教授濱田廉
前七、三〇 夏期ドイツ語講座
前九、一〇 料理献立
前一〇、二〇 野球試合實況 東日大毎主催第二回都市對抗野球大會(第一日)明治神宮外苑球場より中繼
前一〇、三〇 家庭講座「九月月見茶の湯」栗山善四郎

後〇、〇五 和洋合奏
後二、〇〇 夏期講習「長唄のお稽古」三杆家彌七
後六、〇〇 子供の時間
獨唱 神谷眞佐子 ピアノ伴奏瀨戸敏子
後六、二五 講演
後七、三〇 講演「新徒弟制度の再興と少年職業指導」遊佐敏彦
後八、〇〇 獨唱 小原威子 ピアノ伴奏瀨戸敏子
後八、二五 但し追分節
唄中村廣聲尺八廣瀬靜輝
後八、四五 連續ラヂオ
ラム 友田恭助外大勢

が押収せる不良品は左の如くである

品名	本數
ラムネ大	一五三
同 小	二六
レモン水	二〇
サイダー	四五
果實水	二一

軌道連絡中止 石城郡小名濱町警城海岸軌道會社は昨日より省線各列車との連絡運輸を中止した

エロ感時代

藝妓衆のお行儀

蟬取りの少年が樹から轉落重傷

事に依ると右腕切斷

平第一小學校三年一組生徒十五丁目高橋ハナさんの長男卓(一)君は去る三十一日午後三時頃警察署脇の櫻樹に登り蟬を取らうとし誤つて三間餘の高所より轉落悶

お膳の詐欺から

餘罪が續々發覺

既報石城郡内郷村字宮鈴木忠吉方よりお膳の修繕で詐欺を働き平署に檢舉された同村字新町居住詐欺窃盜五

市原醫院

平町 田町
電話一四四番

銘剣秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第五回 血に飢ゆる村正

旅のつかれが出て。

渡る世間に鬼はないといふが、村正も百姓達の親切に喜び御嶽山中の僻村へと連れられて来る。入相告げる遠寺の鐘、時を求める群鳥の聲、シミ／＼旅愁を感じさせる

太「サア、向ふに見えるのが俺達の村だ、ソレ向ふに大きな杉の木があるだろう、あの下が俺の家だ、オウ、煙が上つてゐるべえ、彼りやア婆さまが湯でも沸かしてゐるの……」

田舎の事で家は大きい、屋根の上に草が生えて餘り立派な家ぢやアないが今夜夜露を凌ぎ、足を延ばして休む事の出来る家かと思ふと何となく懐かしい、話ながら来る内に小川が流れてゐる夫に丸木橋が架つてゐる、夫を渡ると

太「ぢやア源兵衛どんや氣の毒だがお前様名主様の處へ寄つて旅の人を今夜一晩泊るからと斷つて置いて下させえ、黙つて泊つて跡で知れると宜くないだから」
源「ア、宜うがすよ、ぢやアお客さん私等は此處で別れますだ」
村「どうも種々御世話に

なりまして有難う存じます」
と別れを告げて源兵衛に茂作の二人は川に添つて下手へ行く。太惣次と村正は



真直に杉の木の家
太「オイ婆様、今戻つた」
その聲に奥から出て来たのは太惣次の女房

女「お歸んなせえまし、大層今日は緩りだつたね」
太「ウム少し途中に譯があつて遅くなつた」
女「オヤ、お客様かね」
太「ウム旅の人だが先刻

中。座敷の真中に大きな爐が切つてあつて、上から竹の自在が下つて鐵瓶が掛け

たね」
夫婦とも誠に好人物らしいから村正も大きに喜び村「此度は意外のお世話になりまして何とも御禮の申上げやうがございません」
太「アハ………お客様そんなに丁寧な禮なんぞ云はれると婆様面喰つてマア、してしまふだ、其處に冷飯

斯ういふ處に住むてゐたら別に苦勞もなからうなどと思ひながら、ふと土間を見ると隅の方に鞆が置いてある。職業柄直ぐ夫に心注いで

草履があるだから夫を持つて私と一緒に來なせえ、足を洗ふだから」
村「大きに忝ない」
云はれる通り藁草履を持つて尾に裏手へ廻ると竹櫃で水が柄杓にためてある、其の水を柄杓で汲み出して足を洗ひ、手拭で拭いて草履を穿き元の口かへ家へ昇

る。座敷の真中に大きな爐が切つてあつて、上から竹の自在が下つて鐵瓶が掛けである、其の爐の縁へドツカリ大安久坐をかけた太惣次が

太「サア、お客様、樂に居て下せえよ、遠慮なんぞされるも窮屈でなんねいから」
打寛いで番茶を呑みながら四方八方の話、斯様な山中ではあるが百二十軒も家があると聞いて村正も感心した、人間は何處へ行つても暮して行けるものだ。

村「御主人、あれに鞆がありませう如何なる事にお使ひなさるので」
太「イヤ、私は石切が本業だから石切の道具を直す爲に彼アいふ物を置いてありますよ」
村「ア、左様ですか」
其の内に女房が膳の支度をして來る地酒ではあるが酒の燗をして

太「サア、遠慮なく飲んで下せえよ、こんな山の中で碌な物はねえが……」
實際碌な物はないが小鳥の焼いたのが恐ろしく旨い又何がなくとも夫婦の厚意に依つて美味く食べられる太「疲れてゐるだらうから早く寝なざるが宜と」
六疊ばかりの座敷へ床を延べて呉れたから、村正挨拶をして床に入る。晝の疲れでグツスリ一寝入りした

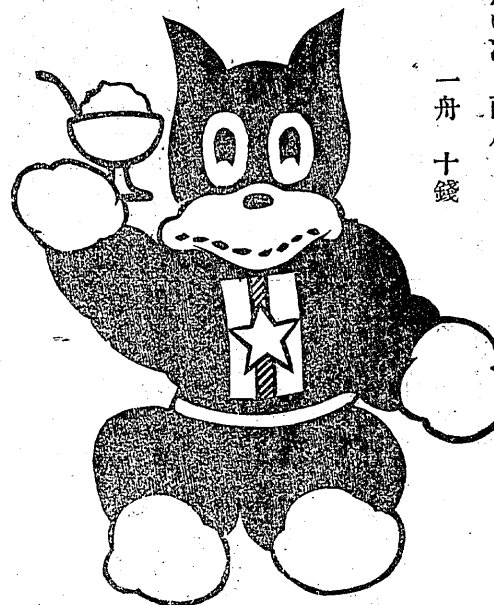
が、ふと目が覺めるとツキ／＼足が痛む障つて見ると股から下がスツカリ腫れて了つて、土踏ますの邊りが恐ろしく痛む。之は困つたと起き上つて撫てゐたが益々痛さはつづけるばかりだ。其の中に夜が明けて主人夫婦は起きたらしく勝手の方で話聲がしてガタ／＼やつていたが、村正は立とうとしても立つ事も出来ない、思はずウン／＼唸つてゐる處へ太惣次が入つて來た

美味！
芳醇！
宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町
電話一〇番

魚清新案の獨特な尖端的!!!
世印
朗アイス
その風味!!!香!!!フレッシュな舌ざはり
容器もモダンで涼味満喫!!!
一皿(山盛)八せん
冷たい冷し西瓜
一舟 十錢



平二警察署裏通り
魚清食堂部
電話六三三番
出前持至急入用

外科
専門線X
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番